



志木中だより

1月号 平成31年1月8日

【学校教育目標】

- ・考える人
- ・思いやりのある人
- ・たくましい人

志木市立志木中学校 志木市柏町3丁目2番2号
048(471)0143 FAX 048(474)6592
URL <http://www.shikichu.ed.jp/>

校長 小林良昭

『 新年を迎えて 』

平成31年を迎えました。新しい年の始まりを迎えると、新鮮で晴れやかな気持ちになります。改めて頑張ろうという気持ちが自然と湧いてきます。

これまでの志木中学校の歴史を振り返り、これからも未来に向けて、新たな伝統をつくるべき年としていきたいと思えます。

今年一年が、さらなる前進の年になるよう職員一同努力をして参ります。保護者、地域の皆様におかれましては、これまでに変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

十干・十二支

平成31年(2019年)は、己亥(つちのとい)の年となります。これは、十干の6番目の「己」、十二支の12番目の「亥」が合わさったものです。

日本の暦には年を表す方法として、十干、十二支というものがあります。

十干は中国から日本に伝わりました。そこに五行の木、火、土、金、水に陰陽(兄・弟)をあわせてつけて

- 甲(こう) 木の兄(きのえ)
- 乙(おつ) 木の弟(きのと)
- 丙(へい) 火の兄(ひのえ)
- 丁(てい) 火の弟(ひのと)
- 戊(ぼ) 土の兄(つちのえ)
- 己(き) 土の弟(つちのと)
- 庚(こう) 金の兄(かのえ)
- 辛(しん) 金の弟(かのと)
- 壬(じん) 水の兄(みずのえ)
- 癸(き) 水の弟(みずのと)

と読みがつけられました。五行の木、火、土、金、水に日と月を加えたものは七曜と呼ばれ、曜日の名称につながっていきます。

十二支である子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥も中国から伝わったものです。

十二支には、ねずみ、うし、とら…というように動物の名前をあてられました。そのため覚えやすくなり、十二支が急速に庶民に広まったと言われています。十干と十二支をあわせて順に年に割り振っていきました。最初は甲子(きのえね)、乙丑(きのとうし)…というように割り振ると、60年で一巡することになります。60歳になると還暦を迎えると言われる由縁です。

志木中にとっての己亥とは

「己」という字は五行説でいう「土の弟」の年となり、「亥」は十二支の最後で、「いのしし」には無病息災を願う他に、情熱という意味合いも含まれているといわれています。十二支に充てられた文字には、それぞれの意味があり、その年をどのような年にしていこうかという昔の人の気持ちが込められているように思います。

平成31年が、志木中学校にとって「これまで培った物事(学業など)を極め、これまで以上に着実な前進し、生徒一人一人が光り輝く学校」になるようにしたいものです。

そのためには、生徒自身が、自ら課題を持ち、主体となって考え、意見を交換し合い、互いに学び取っていく教育活動にすることを目標としたいと思います。そして、豊かな心と確かな学力を身に付けられる授業の質向上に努めていきたいと考えます。学校教育目標のキャッチフレーズ「夢・感動・輝き」を実現できるよう、そして生徒たちが実感できるよう全力で努めていきたいと思えます。また、学校関係者評価等を真摯に受け止め、PDCAサイクルに基づいた学校づくりを進めて参りますので、どうぞ、本年もよろしくお願いいたします。



志木中だより

2月号 平成31年2月1日

【学校教育目標】

- ・考える人
- ・思いやりのある人
- ・たくましい人

志木市立志木中学校 志木市柏町3丁目2番2号
TEL 048(471)0143 FAX 048(474)6592
URL <http://www.shikichu.ed.jp/>

校長 小林良昭

『それぞれの春に向かって』

寒い日が続いていますが、早いもので残すところ2ヶ月余りとなりました。学校の中では、生徒たちが一歩ずつ着実に成長してきている感じが感じられます。中でも三年生は、受験の真っ最中です。物事を成し遂げるには、「必ずできる」という信念と「なんとしても・・・」という情熱を持ち続けることです。自信を持って望み、最後の一人の進路が決定するまで皆で応援してほしいと思います。ところで、雁（ガン）はV字に編隊を組んで空を飛びます。一羽が疲れると数羽がこれに付き添うと言います。仲間がいるせい、一説によると、一羽で飛ぶより7割、飛行距離が伸びるそうです。雁（ガン）のように良き仲間がいると自分自身も伸びるものです。お互いに高め合い、本年度のまとめに入って欲しいと思います。

『大事の思案・・・』

「大事の思案は軽くすべし、小事の思案は重くすべし」という言葉があります。これは、「大事なこと、重要なことを行っていく時には、あれこれと考えてどうかではなく、今持っている力でやるが必要であり、小さなこと、日々のことについて一つ一つしっかり考えていくことが大切」という教えます。入学試験も、試験当日にどうしようと考えてもだめなものです。試験では、今まで準備してきたことや勉強してきたことを全部出し切ることが大切です。それは日々どのように過ごしてきたかによるものです。中学校三年間で積み上げた結果が自分の力となり発揮されます。備えというのは日々の行動からできるものです。小さなことの積み重ねを大切にしていきましょう。

『新しい春に向けて・・・』

2月4日は立春です。季節と深い関わりを持つ農業などは、昔から立春の日というのは、いろいろな目安、出発点になっていました。例えば、「夏も近づく八十八夜」とは、立春から数えて88日目であり、この頃になると霜も終わりになるので、農家にとっては大切な時期となります。また台風が来る頃として心配される二百十日といわれる日も立春から数えて表します。このように考えてみると「立春」という日は、別な意味での一年の初めということと言えるのではないのでしょうか。

そして、立春の前日が節分です。節分とは、季節の分かれ目のことです。季節には「春夏秋冬」がある訳ですから、もともとは年に四回節分があったようです。しかし、寒くてつらい冬から春になり、これから作物を作る新しい一年が始まるというので、立春の前日だけが節分として残ったようです。

節分の際、日本の伝統的な行事となっている豆まきがあります。追儺（ついな）の儀式ともいいます。「鬼は外、福は内」と豆をまくのは、一年の災いを払うための厄落としの意味があります。歳の数だけ、または歳より一つ多く豆を食べるのは、一年間健康に過ごせるようにとの願いが込められています。

最近「恵方巻き」を食べる習慣も広がってきました。これは、節分の日に、その年の恵方に向かって食べる太巻き寿司で、「福を巻き込む」という意味や切らずに一本丸ごと食べることで、「縁を切らない」という意味が込められているそうです。

子どもたちには、災いを払い、福を呼び込み、新しく迎える春に向かって元気に出発してほしいと思います。